

図9 パス解析図

(資料1)

就学前における言語発達遅滞児や読み書き学習困難児の早期発見、早期対応に向けた調査研究に関するお願い

2002年10月30日

国立精神・神経センター精神保健研究所  
知的障害部治療研究室 室長 宇野彰

(1) 基本的な考え方

平成14年度厚生労働省の研究班「学習障害児早期発見検査法の開発および治療法と治療効果の研究(H14-こども-008)班長 宇野彰」にて、小学校就学前の児童(年長)を対象に、言語発達や将来の読み書きの学習能力を就学前に予測する試みを実施することに致しました。就学前に、ある種の学習の困難さを予測できた場合には、早めに学校教育の中で個別の対応が可能になり、学習の遅れを早期にカバーすることが可能ではないかと考えています。そのためには就学前半年以内の第一時点、1年後の第二時点、2年後の第三時点と3年間3時点にわたってその児童の学習状況を調査したく存じます。今回は第一時点ですので、保護者からの同意が得られた幼稚園児、保育園児を対象に、可能でしたら園にて調査をさせていただきますようお願い申し上げます。調査の内容は個人の秘密を厳守し研究のみに使用いたします。しかし、希望がある場合には個別には保護者の方のご相談に応じるつもりです。すなわち、この調査結果に関して保護者の希望がありましたら、通知するつもりですし、必要でしたら何らかのお役に立ちたいと思っています。

(2) 調査の枠組み

まず、保護者の方に依頼文を配布し、同意が得られた年長さんを対象にさせていただきますと幸いです。ひとりあたり、約5-7分の検査を考えています。

(3) 保護者の同意

保護者の方向けに簡単な配布資料を用意するつもりです。大枠の検査内容と3時点とも協力してくださる気持ちがあるかどうか、今回は協力してくださるかどうか、などをお聞きしてサインを頂こうと思っています。

(4) 検査の形態と内容

個別式検査・・・児童一人に一人の言語聴覚士もしくは言語聴覚士を目指す学生がついて  
5-7分の検査（子供たちには「クイズ」と呼ぶことにします）を実施します。

検査内容・・・数字や絵の名前を出来るだけ早く言ってもらう課題（約2分）

図形を覚えてもらう課題（約45秒）

二つの短文を聞いてあとで質問に答える課題×3（約1分半）

数字と単語の逆唱（約2分15秒）

入れ替え時間や個人差を考慮しますと7分から10分ぐらいかかるのではないかと考えています。

(5) その他：ご迷惑でなければ児童一人あたり500円の図書券を用意しています。また、園に少額ですが図書費を寄附させていただきたく存じます。以上の件、ご検討いただけましたら幸いです。

以上が原案です。いろいろ修正の余地があるかと存じます。ご意見賜りたく宜しく願い申し上げます。

以上

272-0827 市川市国府台 1-7-3

国立精神・神経センター

精神保健研究所

電話 047-372-0141

fax 047-371-2900

e-mail [uno@ncnp-k.go.jp](mailto:uno@ncnp-k.go.jp)

(資料2)

＜年長児クラスの保護者の方へ＞

以下の内容をお読み頂き、2枚目の用紙にご記入下さいますと幸いです。

就学前における言語発達障害児や読み書き学習困難児の早期発見、早期対応に向けた調査研究に関するお願い

2002年10月30日

国立精神・神経センター精神保健研究所

知的障害部治療研究室 室長 医学博士 宇野彰

### (1) 基本的な考え方

このたび、平成14年度厚生労働省の研究班「学習障害児早期発見検査法の開発および治療法と治療効果の研究(H14-こども-008) 班長 宇野彰」で、小学校就学前のお子さん(年長)を対象に、言語の発達や将来の読み書きの学習能力を予測する試みを実施することにいたしました。就学前に言語の発達や読み書きに伴う学習の困難さを予測できれば、学校教育の中で早めに個別の対応が可能になり、学習の遅れをカバーすることが可能ではないかと考えております。しかし、現状ではこのような困難さを予測するための調査方法や療育の方法が確立されていません。

今回、早期発見のための検査法及び治療法の開発のために、多くのお子さんの力をお借りしたいと考えております。調査は、就学前半年以内の第1時点、1年後の第2時点、2年後の第3時点と、3年間の3時点の学習状況について行います。今回は第1時点ですので、保護者の方の同意が得られた幼稚園・保育園のお子さんを対象に、幼稚園・保育園にて調査をさせていただきたいと考えております。この調査は、お子さん一人一人に点数をつけることが目的ではありません。また、個人の秘密を厳守し、調査内容は研究のみに使用させていただきます。しかし、保護者の方のご希望があれば、結果に関しては通知させていただきます。また、必要でしたら個別の相談をお受けするなど、何らかのお役に立ちたいと思っております。かような主旨をご理解いただき、ご協力を賜りますと幸いです。

### (2) 検査の形態と内容

個別式検査・・・お子さん一人に、一人の言語聴覚士がついて、6-8分の検査(お子さんたちには「クイズ」と呼ぶことにします)を実施します。

検査内容・・・数字や絵の名前を出来るだけ速く言ってもらう課題(約2分)

図形を見て覚えてもらう課題(約45秒)

二つの短い文を聞いて、あとで質問に答えてもらう課題(約1分半)

数字と単語を逆から言ってもらう課題(約1分15秒)

ひらがな6文字の音読などです。

可能でしたら録音させていただきます。

検査場所・・・園内で協力して頂いて実施します。

(3) その他：ご迷惑でなければ、お子さんお一人あたり 500 円の図書券を用意しております。

以上の内容で、お子さんにクイズ形式の調査を行うことをご承諾くださいます様、是非、宜しく願い申し上げます。

#### 回答用紙

《 ？月 ？日（金）までに、この用紙のみを保育園または幼稚園に御提出ください》

以下の質問にお答え下さい。

- ① この調査研究にご協力頂けますか？ (1, 協力する、2, 協力しない)
- ② ①で1とお答え下さった方にお尋ね致します。  
(1, 今回のみ協力する、2, 今回だけでなく2時点、3時点も協力しても構わない)
- ③ ②で2とお答え下さった方にお尋ね致します。  
小学校に入学後、ご連絡させて頂くこととなりますが、よろしいでしょうか？  
(1, 構わない、2, 構わないが条件つき{ }、  
3, その他{ })
- ④ その他何かご質問等がございましたらお書き下さい。  
( )

\* お子さんのお名前 ( )

お子さんご本人にも協力する意思があるかどうか伺うつもりです。

以下はご協力下さる方のみお書き下さい。

\* お子さんの生年月日 (19 年 月 日)

\* ご住所 ( )

\* 電話番号 ( )

\* E-mail アドレス ( )

\* 保護者氏名

---

(資料3)

## 児童向けインフォームドコンセント検査者用マニュアル

### 児童本人への口頭説明文

このクイズは、絵や数字の名前を言ったり、言葉を聞いて質問に答えたり、逆さ言葉を言ったり、絵を覚えたり、ひらがなを読んでもらうクイズです。やってくれますか？途中で嫌になったら、いつでもやめていいからね。それから、他の人には君がどれくらいできたか、絶対に教えないから安心してね。答えてもらっているところを録音させてもらっているんですか？

(資料4)

( ) 幼稚園・保育園 実施日 年 月 日 検査者  
組 様 男・女 年 月 日生 歳 月

1. Rapid naming 「数字と絵の名前をできるだけ速く言ってね」

	所要時間	誤反応	自己修正
練習	秒	回( )	回( )
1枚目	秒	回( )	回( )
2枚目	秒	回( )	回( )
3枚目	秒	回( )	回( )
変動性係数			

2. 文章の理解「あとで質問をするからこれから言う言葉をよく聞いてね。」

(提示文を2文連続して音読してから、問題文を音読する)

	提示文	問題	反応
練習	きりんが目をつぶっています	目をつぶっているのはだれかな	
	豚がケーキをきっています	豚がきっているのはなにかな	
1	かぶと虫がすいかをなめている	かぶと虫がなめているのは何かな	
	さるがえをかいています	猿が描いているのは何かな	
2	カンガルーがボールをけています	あくびをしているのは誰かな	
	ライオンがあくびをしています	カンガルーが蹴っているのは何かな	
3	かえるが傘を持っています	傘を持っているのは誰かな	
	おまわりさんが三輪車を止めました	おまわりさんが止めたのは何かな	
正答			/ 6

3. 数字の逆唱「今から言う数を反対から言ってね」(横方向に実施。同単位で2問不可時に中止)

例題	8-2	P・F	例題	5-6	P・F
1	5-7-2	P・F		3-5-9	P・F
2	4-5-1-8	P・F		7-1-4-6	P・F
正答	2単位 / 2		3単位 / 2	4単位 / 2	

4. 単語の復唱と逆唱「いぬって言うてみて」「犬を反対から言うとぬいだよね。じゃあ、ねこは？」

	所要時間	復唱	逆唱	正誤
1. さかな	秒			P・F
2. はさみ	秒			P・F
3. ことば	秒			P・F
4. てがみ	秒			P・F
平均	秒			正答 / 4

5. 図形の記憶課題(5秒以内提示)

①反応時間 秒 ②反応時間 秒 ③反応時間 秒 ④反応時間 秒 正答 / 4

6. かな音読 ち は さ ん ほ き 正答 / 6

れんしゆう

2



7



3



6



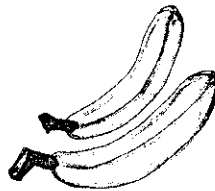
4



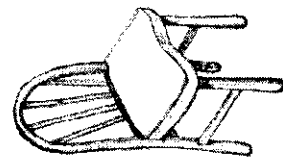
1



9



8



5



9







9

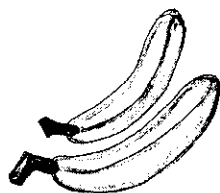
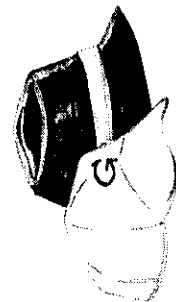


9

5



3

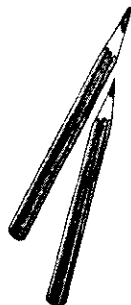


7

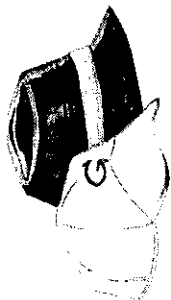
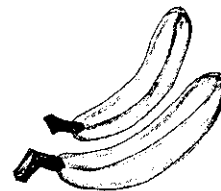


4

7



5

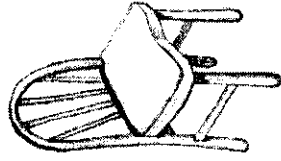


4

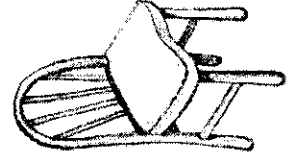


3

4



8



2

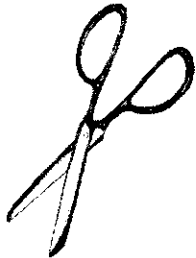


1

2



4

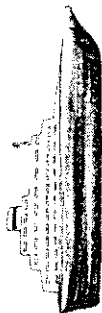


6



8

6



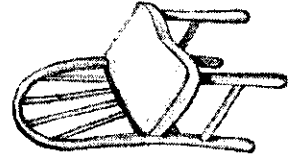
1



4



8



2

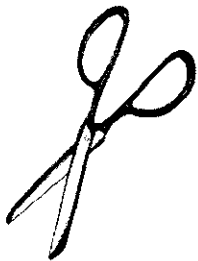


6

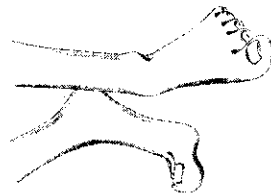
3



4

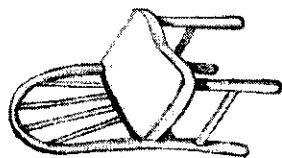


3



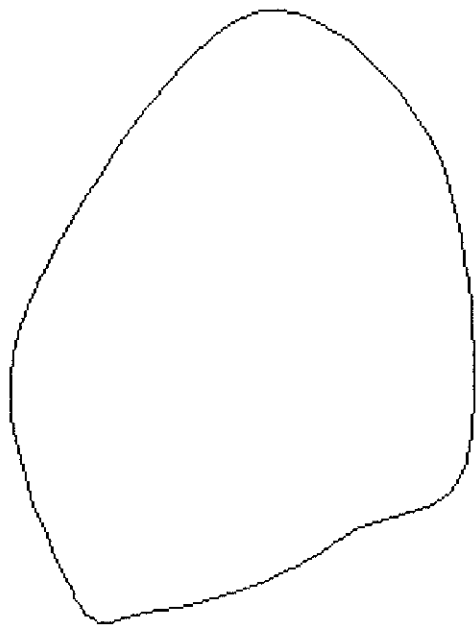
8

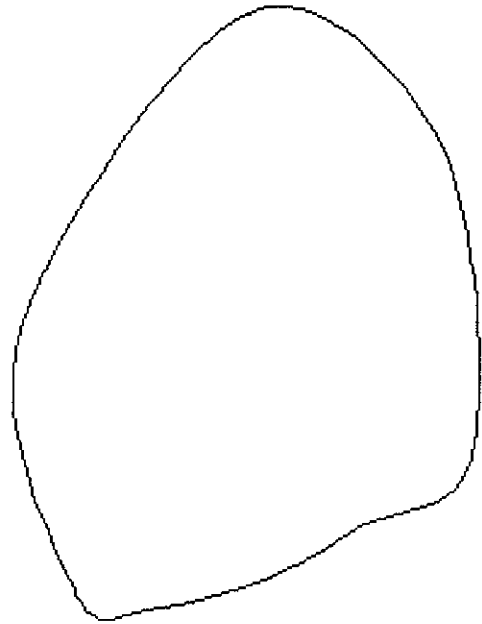
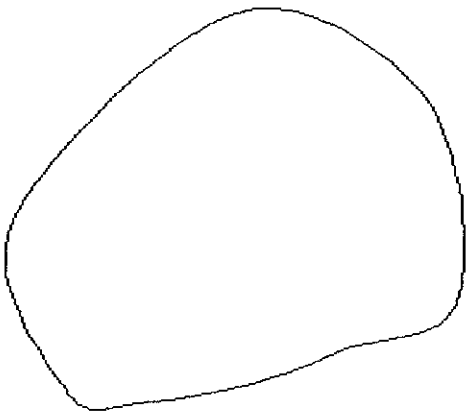
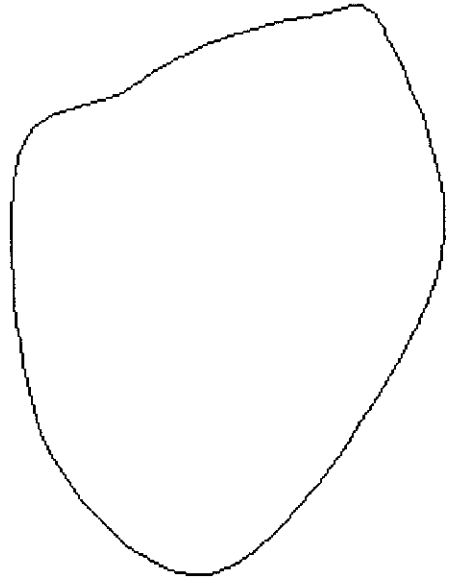
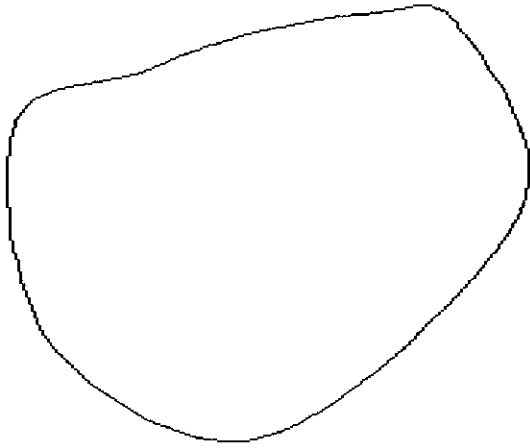
2

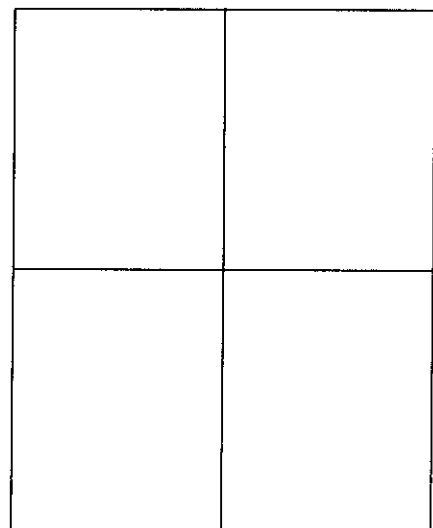
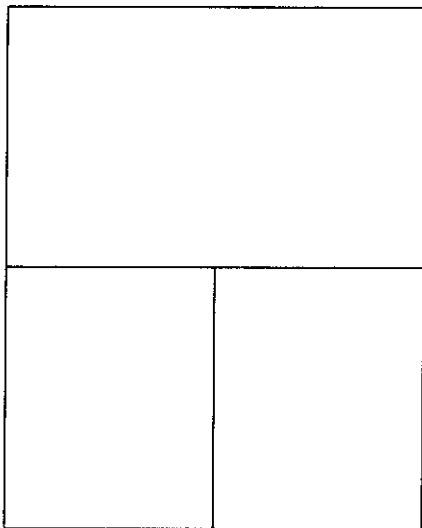
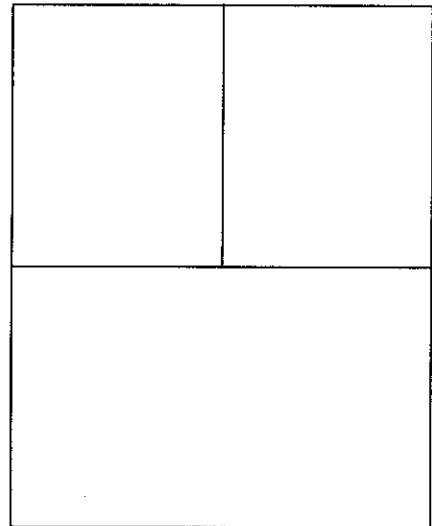
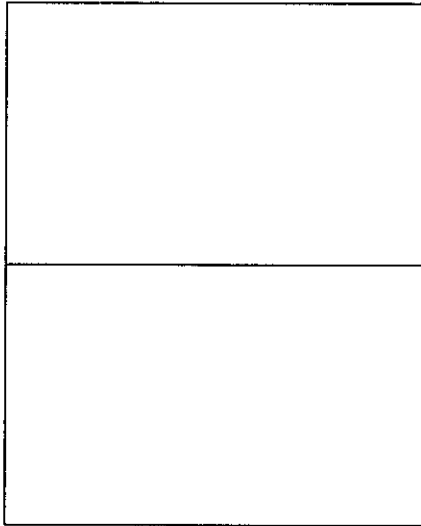


6



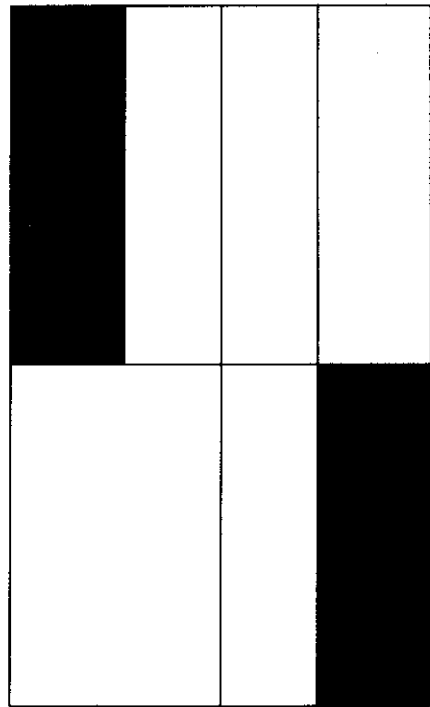
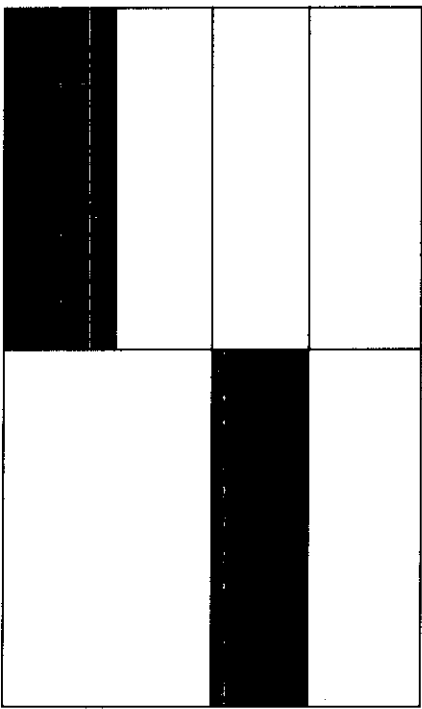
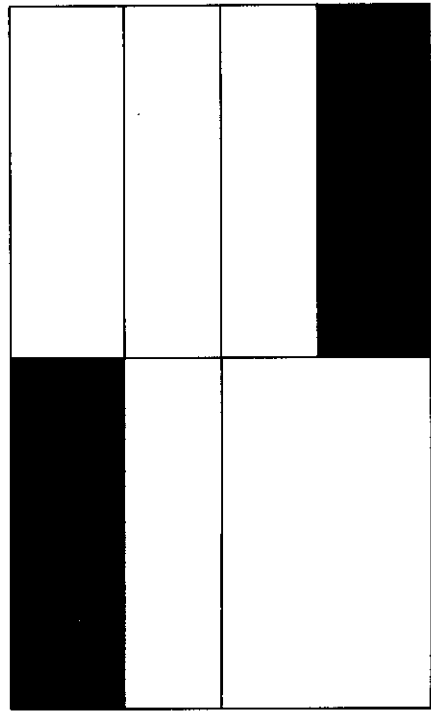
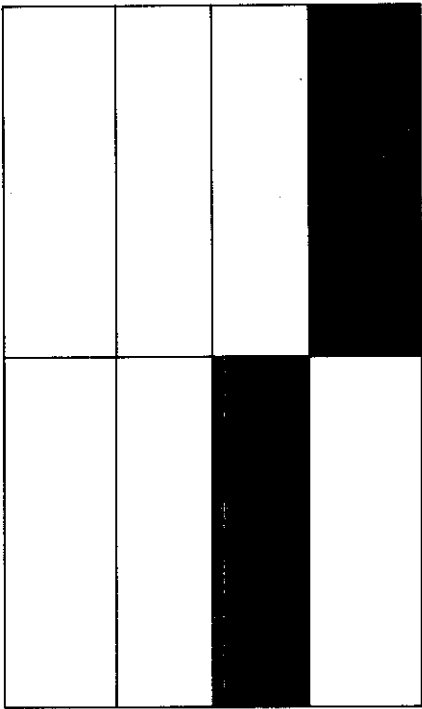


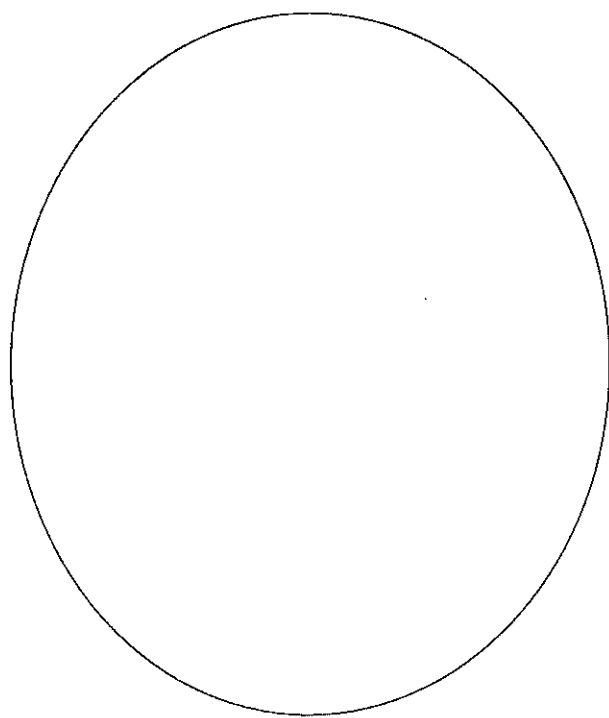


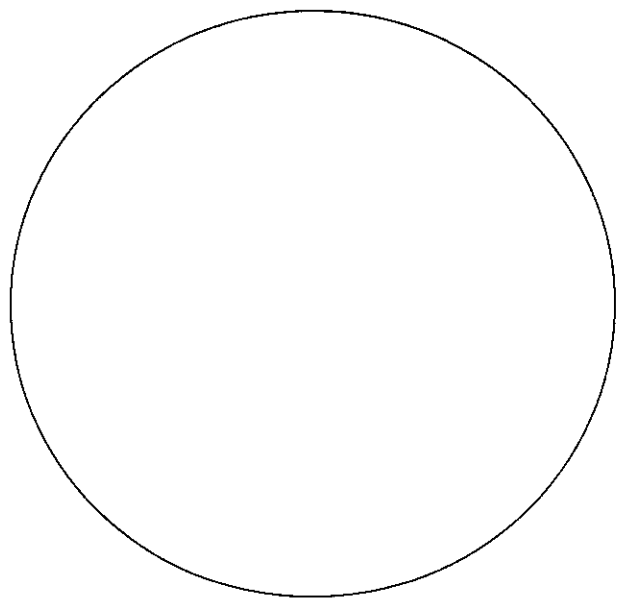
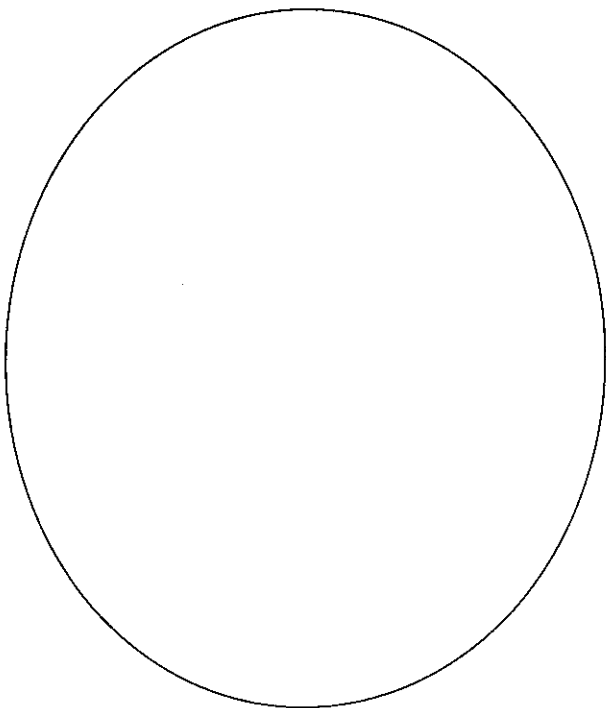
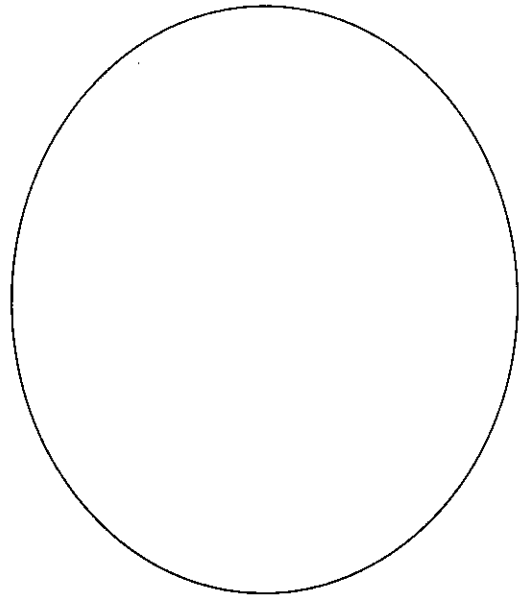
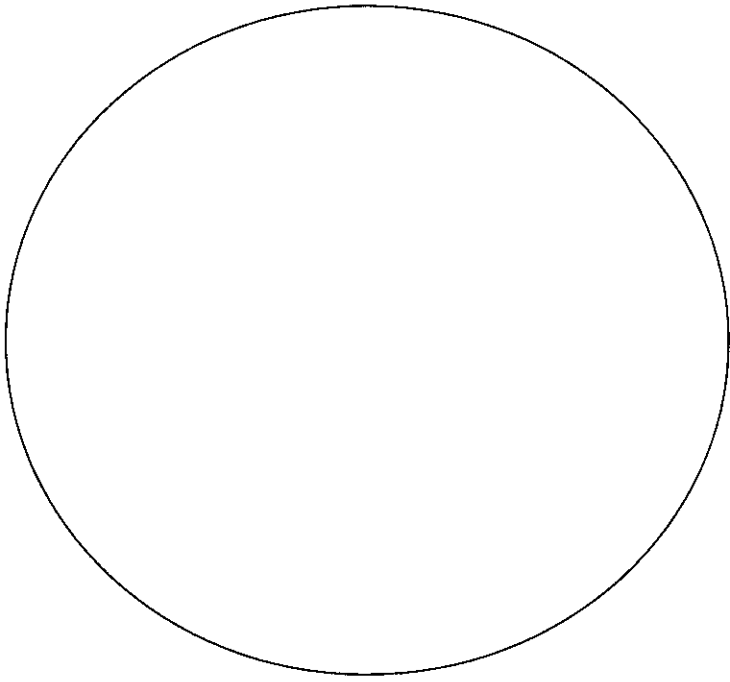



[REDACTED]			
		[REDACTED]	









就学前5歳児を対象とした  
聴覚性文理解テスト作成の試み

研究協力者 玉岡賀津雄 広島大学 教授

### A. 研究目的

文字を習得していない就学前児(主に、5歳児)を対象に、文理解の程度を測定する目的で、聴覚性文理解テストを作成した。就学前児を対象としているため、文を文字で視覚提示することはできない。そこで、口頭で文を提示する聴覚性の文理解テストを作成することにした。なお、このテストの英語名は、Auditory Sentence Comprehension Test とする。

### B. 聴覚性文理解テスト作成の2つの条件

テスト作成にあたり、2つの条件を設定した。第1に、簡単に学校や病院などで行えるように、テストの実施に要する時間を約3分以内とした。実施時間が短いという制約の中でも、高い信頼性と妥当性を確保しなくてはならない。第2に、5歳児の文理解能力について弁別力のあるテストであることとした。就学前児の文理解能力を正確に測定するために、ある程度の得点の広がりがあり、正規分布するテストを作成しなくてはならない。以上の2つの条件に合う聴覚性文理解テストを作成することにした。

### C. 聴覚性文理解テストの構成

テストに用いる文は、例えば、「カブト虫がスイカをなめています。」のような、主語、目的語、動詞という構造の文に限った。これらの文の構造は、図1に示したように、名詞句(NP; noun phrase)と動詞句(VP; verb phrase)の関係で成り立っている。テストには、二項動詞の能動態の文のみを採用している。二項動詞の文においては、動作主である主語と被動者である目的語の二つの名詞句の関係を定める役割を果たしている。そのため、就学前児は、動作を行う「カブト虫」と動作を受ける「スイカ」の関係を、動詞である「なめる」が決めているという状況を把握して、短期記憶に維持しておかなくてはならない。

Kosaka & Tamaoka (2002)によると、5

歳児であれば、文を一つ覚えて答えるくらいは簡単にできるようである。しかし、口頭で文が三つ提示されるとやや難しすぎるようで、文が二つ提示されるくらいがもっとも適切だろうと報告している。そこで、聴覚性文理解テストでは、Kosaka & Tamaoka (2002)から6つの文を選択して、2つずつの3グループとし、3回の聴覚提示でテストを構成した。具体的には、文を2つ続けて口頭で提示し、その後、質問をそれぞれの文について一つずつ行った。例えば、上述の文であれば、「カブト虫がなめているのは何かな？」と尋ね、就学前児は「スイカ」と答える。文の聴覚提示と質問の順番は適当に入れ替えるようにした。

### D. 研究結果と考察

#### D-1. 正答率と得点の分布

テストに使用した聴覚提示文とその質問文は表1に示した通りである。18名の男児と14名の女児から成る32名の就学前児を対象としてテストを実施した。これらの就学前児は、5歳1ヶ月から5歳11ヶ月までの年齢で、平均は5歳7ヶ月であった。

テストは、6つの文からなっており、全問正答の場合が6点で、まったく正答がない場合が0点となる。本研究の32名の就学前児については、0点および1点はいなかった。得点の平均値は3.97で、標準偏差は0.97で、中央値は4.00で、最頻値は4であった。平均値、中央値および最頻値ともにほぼ4という値となった。また、歪度は0.07であった。歪度は、分布の左右対称性を示す統計量であり、0に近いほど左右が対称である。聴覚性文理解テストの得点分布は極めて左右対称に近いことが示されている。さらに、尖度は0.14であった。尖度は、分布の尖り具合または分布のスソの長さを示す統計量であるが、数値が小さいのであまり尖った分布ではないようである。2点から6点までの正答者数の頻度を棒グラフにしたのが図2である。視覚的に見ても、ほぼ左右対称の綺麗な正規分布であることが